学術集会
ご報告

第16回
日本生殖内分泌学会学術集会を終えて

会長
宮本　薫
（福井大学医学部医学科
生命情報医科学講座
分子生体情報学領域
教授）

昨年11月に東京シェーンバッハサボーにて第16回日本生殖内分泌学会学術集会を開催させていただきました．

本学術集会は，生殖内分泌に関わる産婦人科・泌尿器科を中心とした臨床系の研究者と基礎系の研究者が一堂に会し，その研究成果を討議できる日本でも数少ない学際的な学術集会であります．また関連する日本内分泌学会や日本生殖医学会ともオーバーラップしながら，一方で独自の視点での研究集会として発展してきた学会でもあります．

第16回学術集会におきましては，招請講演を性分化研究の第一人者である九州大学大学院医学研究院分子生命科学系部門・性差生物学の諸橋憲一郎先生に，「生殖腺におけるステロイドホルモン産生」と題してお願いいたしました．さらにシンポジウムでは，「性腺における新たな転写制御とエピジェネティクス」を主題として，MRC National Institute for Medical Researchの関戸良平先生には「生殖腺の性分化と維持に関わる分子機構」，京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニットの岡田由紀先生には，「精子形成過程におけるヒストンメチル化酵素DOT１Lの機能解析」，国立成育医療研究センター分子内分泌研究部の深見真紀先生には，「チトクロムP450オキシドレダクターゼ（POR）の転写制御機構」，福井大学医学部分子生体情報学の水谷哲也先生には，「卵巣におけるクロマチン構造変換を介した転写調節機構」と題してそれぞれご講演いただき，大変活発にご討議いただきました．

一般演題も例年に比べ多く，今回33題の応募があり，２会場に分けてご発表いただきました．内容も，生殖内分泌に関する遺伝子発現調節などの基礎的な演題や産婦人科領域および泌尿器などのその他の臨床分野から幅広い研究発表が集まり，活発な討論が展開されました．

ご参集いただいた先生方のご協力のもと，本学術集会を成功裏に執り行うことができましたことを感謝申し上げますとともに，日本生殖内分泌学会の今後ますますの発展を祈念して大会報告とさせていただきます．